

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和5年度事業)

令和6年7月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
(1)	教育委員会の会議の開催状況	2
(2)	教育長・委員の活動状況	4
(3)	教育長・委員の研修状況	4
4	総合教育会議の開催状況	5
5	点検・評価の対象事業	6

No.	分 野	事務・事業名	担当課等	ページ
1	学校教育	スクールバス運行事業	教育総務課	6
2	学校教育	学校生活支援事業	教育指導課	7
3	学校教育	部活動指導員配置事業	教育指導課	9
4	学校教育	学校施設改修事業費	施設管理課	10
5	芸術文化	ふるさとの偉人再発見事業	生涯学習課	11
6	生涯学習	四ツ屋まつり	花館公民館	12
7	生涯学習	おもしろ講座	神岡中央公民館	13
8	芸術文化	にしせんぼく文化祭	大綱交流館	14
9	芸術文化	なかせん芸術文化祭	中仙公民館	15
10	芸術文化	市民会館自主事業「定期能公演」、「演劇」 (協和小学校芸術鑑賞会)	協和公民館	16
11	芸術文化	なんがい地域祭	南外公民館	18
12	生涯学習	放課後子ども教室推進事業 「サタデーキッズパーク」	仙北公民館	20
13	生涯学習	花いっぱい運動事業	太田公民館	22
14	生涯学習	子ども読書通帳事業	総合図書館	24
15	芸術文化	大仙市音楽祭2023	総合市民会館	26

6	学識経験者の総評	28
---	----------	----

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、令和5年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、15事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、学識経験者 中村 隆一 氏、伊藤 晃 氏の2氏から評価していただきました。

(4) 外部評価後の検証・実施

外部評価を踏まえ、事務事業を再検証し、できる限り今後の施策に反映していきます。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。
令和5年度は、定例会のほか臨時会を2回開催し、合計14回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
定 R5.4.26 大曲庁舎	議案第19号 大仙市教育委員会公印規則の一部を改正する規則案に関する臨時代理について 議案第20号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第21号 部活動地域移行支援コーディネーターの任命に関する臨時代理について 議案第22号 部活動地域移行支援コーディネーターの任命に関する臨時代理について 議案第23号 部活動地域移行支援コーディネーターの任命に関する臨時代理について 議案第24号 大仙市社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第25号 公民館運営協力委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第26号 大仙市地域学校協働活動統括推進員及び推進員の委嘱に関する臨時代理について 議案第27号 大仙市立図書館協議会委員の任命に関する臨時代理について
定 R5.5.26 大曲庁舎	議案第28号 令和5年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第29号 教育支援専門検査員の委嘱について 議案第30号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について
定 R5.6.30 大曲庁舎	議案第31号 令和5年度大仙市一般会計補正予算（第3号）案に関する臨時代理について 議案第32号 令和5年度大仙市一般会計補正予算（第4号）案に関する臨時代理について
定 R5.7.28 大曲庁舎	議案第33号 大仙市部活動指導員設置規則の一部を改正する規則の制定に関する臨時代理について 議案第34号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について 議案第35号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第36号 大仙市立小学校用教科用図書の採択について
定 R5.8.23 大曲図書館	議案第37号 令和5年度大仙市一般会計補正予算（第7号）案に関する臨時代理について 議案第38号 大仙市公民館条例の一部を改正する条例の制定に関する臨時代理について
定 R5.9.22 ふれあい文化センター	議案なし（報告案件のみ） ※ 移動教育委員会として開催

定 R5.10.20 大曲庁舎	議案第 39 号 大仙市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 40 号 大仙市小・中学校インターネット利用規程の一部を改正する訓令の制定について
定 R5.11.22 大曲庁舎	議案第 41 号 令和 5 年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第 2 号）案に関する臨時代理について 議案第 42 号 令和 5 年度大仙市一般会計補正予算（第 11 号）案に関する臨時代理について 議案第 43 号 令和 5 年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第 3 号）案に関する臨時代理について
定 R5.12.22 大曲庁舎	議案なし（報告案件のみ）
臨 R5.12.22 大曲庁舎	議案第 44 号 県費負担教職員の人事の内申について

令和 6 年

定 R6.1.26 大曲庁舎	議案なし（報告案件のみ）
定 R6.2.21 大曲庁舎	議案第 1 号 大仙市コスモス奨学基金条例の制定に関する臨時代理について 議案第 2 号 令和 5 年度大仙市一般会計補正予算（第 15 号）案に関する臨時代理について 議案第 3 号 令和 5 年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第 4 号）案に関する臨時代理について 議案第 4 号 令和 5 年度大仙市奨学資金特別会計補正予算（第 1 号）案に関する臨時代理について 議案第 5 号 令和 6 年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第 6 号 令和 6 年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第 7 号 令和 6 年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第 8 号 大仙市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 9 号 大仙市学校給食センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
臨 R6.2.21 大曲庁舎	議案第 10 号 県費負担教職員の人事の内申について
定 R6.3.27 大曲庁舎	議案第 11 号 大仙市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について 議案第 12 号 大仙市部活動指導員設置規則の一部を改正する規則の制定について 議案第 13 号 教育アドバイザーの任命について 議案第 14 号 教育アドバイザーの任命について 議案第 15 号 部活動地域移行コーディネーターの任命について 議案第 16 号 部活動地域移行コーディネーターの任命について

※ 議案番号は暦年による一連番号

(2) 教育長・委員の活動状況

【入学式】

日 程 令和5年4月7日～11日
場 所 小学校20校、中学校10校 全30校
出席者 教育長、教育委員、事務局長、課・所・館長

【学校訪問】

日 程 令和5年6月21日～12月22日 全30日程
場 所 小学校20校、中学校10校 全30校
訪問者 教育長、教育委員、事務局長、課・所・館長、指導主事

【公民館訪問】

日 程 令和5年4月17日～19日
場 所 市内8公民館
訪問者 教育長、事務局長、課・館長、地域学校協働活動推進員

【卒業式】

日 程 令和6年3月9日～16日
場 所 小学校20校、中学校10校 全30校
出席者 教育長、教育委員、事務局長、課・所・館長

(3) 教育長・委員の研修状況

【東北都市教育長協議会定期総会・研修会】

時 期 令和5年4月20日、21日
場 所 福島県郡山市
出席者 教育長

【全国都市教育長協議会定期総会・研究大会】

時 期 令和5年5月17日～20日
場 所 北海道帯広市
出席者 教育長

【令和5年度第1回県南地区教育長会議】

時 期 令和5年5月24日
場 所 松與会館
出席者 教育長、事務局長

【令和5年度大仙市教育委員会委員研修視察】

時 期 令和5年9月22日
場 所 ふれあいスポーツランド ソラーレ
出席者 教育長、教育委員、事務局長、課・所・館長

【令和5年度第2回県南地区教育長会議】

時 期 令和5年11月8日
場 所 松與会館
出席者 教育長、事務局長

【全県教育長会議】

時 期 令和5年11月9日
場 所 秋田県庁 第二庁舎
出席者 教育長

【秋田県市町村教育委員会連合会及び秋田県都市教育長協議会合同研修会】

時 期 令和5年11月10日
場 所 秋田市役所
出席者 教育委員、教育指導課長

4 総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは、平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、市長と教育委員会を構成員として設置されるもので、市長と教育委員会が教育の課題やあるべき姿を共有し、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としています。

令和6年2月16日、大仙市役所大曲庁舎において令和5年度第1回大仙市総合教育会議を開催しました。この会議では、教職員の業務改善について、また、部活動の地域移行に関する取組の現状と課題について協議を行っています。

【令和5年度第1回大仙市総合教育会議】

日 時 令和6年2月16日（金） 午後3時
場 所 大仙市役所大曲庁舎 3階 大会議室
協議事項 (1) 教職員の業務改善について
(2) 部活動の地域移行に関する取組の現状と課題について

事務事業の点検・評価表

	番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課																							
事業名	スクールバス運行事業																												
事業の目的	この事業は、スクールバスを運行することにより、学校統合に伴い遠距離通学となった児童生徒の登下校の安全確保と通学難の解消を図ることを目的とする。																												
事業の実施状況	事業費		184,386千円																										
	学校の統合により、通学距離がおおむね4キロメートル以上となった児童、及びおおむね6キロメートル以上となった生徒を対象に、次のとおりスクールバスを運行(運行日数240日程度)した。 ○対象校、対象利用者数及び運行形態(令和5年度利用人数396名) <table border="1"> <thead> <tr> <th>学 校 名</th><th>利用者数</th><th>運 行 形 態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神岡小学校</td><td>28人</td><td>市直営 マイクロバス1台</td></tr> <tr> <td>南外小学校</td><td>32人</td><td rowspan="2">市直営 マイクロバス3台</td></tr> <tr> <td>南外中学校</td><td>3人</td></tr> <tr> <td>西仙北小学校</td><td>128人</td><td rowspan="2">民間委託 中型バス2台、マイクロバス7台</td></tr> <tr> <td>西仙北中学校</td><td>62人</td></tr> <tr> <td>中仙小学校</td><td>54人</td><td rowspan="3">民間委託 中型バス2台、マイクロバス4台</td></tr> <tr> <td>豊成小学校</td><td>47人</td></tr> <tr> <td>中仙中学校</td><td>42人</td></tr> </tbody> </table> ○利用者数の推移 令和2年度：402人、令和3年度：506人、令和4年度：446人						学 校 名	利用者数	運 行 形 態	神岡小学校	28人	市直営 マイクロバス1台	南外小学校	32人	市直営 マイクロバス3台	南外中学校	3人	西仙北小学校	128人	民間委託 中型バス2台、マイクロバス7台	西仙北中学校	62人	中仙小学校	54人	民間委託 中型バス2台、マイクロバス4台	豊成小学校	47人	中仙中学校	42人
	学 校 名	利用者数	運 行 形 態																										
	神岡小学校	28人	市直営 マイクロバス1台																										
	南外小学校	32人	市直営 マイクロバス3台																										
南外中学校	3人																												
西仙北小学校	128人	民間委託 中型バス2台、マイクロバス7台																											
西仙北中学校	62人																												
中仙小学校	54人	民間委託 中型バス2台、マイクロバス4台																											
豊成小学校	47人																												
中仙中学校	42人																												
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった																												
	教育委員会と関係各所(委託業者、学校)との間で、年に数回定期的に打合せを行い、運行に係る問題解決に努めている。その結果、天候の変化や、児童生徒の転出・転入によるバス停の変更など、突発的な問題にも学校や委託業者との連絡を密にし、1年を通じて安全に運行を行うことができた。特に中仙地域のスクールバス運行については、既存の2路線に加え学校の統廃合に伴い令和3年度から新たに4路線を増設したが、これまでに大きなトラブルもなく順調に運行できた。																												
課題等	現在、直営で運行する神岡地域及び南外地域のスクールバス4台については、いずれも購入から20年近くが経過し、修繕等の経費が嵩んでいることから、更新を検討する必要がある。 特に冬期間におけるスクールバス運行の安全確保については、各支所や委託業者と連携し、除雪対応や道路状況の確認を行っていく必要がある。 今後も、通学手段の確保は市の責務であるが、掛かる経費が膨大であることから、毎年利用児童生徒数に応じて、運行経路の見直し等を行い経費節減に努めるとともに、今後の学校統合も見据えた新たな通学援助の方法を検討していく必要がある。																												
外部評価 有識者の意見・評価	●学校統合に伴い通学距離が長くなる児童生徒にとって、通学手段を確保することはとても大事な事業であり、評価できる内容であると思います。引き続き委託事業者や担当職員と連絡を密にして安全運行に努めてもらいたいと思います。また、直営バスの運行に関しては、スクールバスを更新できますよう今後もご努力くださるようお願いいたします。 ◆児童生徒数は減少していきませんが、今後は学校の統合が進んでいくと予想されます。それに伴って通学距離が遠くなる児童生徒がますます増えていきますので、スクールバスの運行は拡大が必至です。当然、経費も膨らみますが、将来を担う児童生徒の教育環境整備のための予算は最優先で確保されるべきだと思います。現在使用しているスクールバスの更新は喫緊の課題だと思います。 地域や保護者の協力をいただくことや、コミュニティーバスの活用等も検討しているようですので、よりよい課題解決を図っていただきたいと願っています。																												

事務事業の点検・評価表

番号	2	分野	学校教育	担当課	教育指導課
----	---	----	------	-----	-------

事業名	学校生活支援事業																																															
事業の目的	小・中学校において、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対して支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行うことにより教育環境の充実を図る。																																															
事業の実施状況	事業費		136,194千円																																													
	1 学校生活支援員等の配置 ①学校生活支援員 配置校：16校 特別な支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活全般において支援を行う。 ②日本語指導支援員 配置校：1校 海外出身等の日本語指導支援を必要とする児童生徒に対し、支援を行う。 ③学校生活支援員（看護師） 配置校：1校 学校において医療的ケアを必要とする児童生徒に対し、支援を行う。 ④複式学級支援員 配置校：4校 複式学級の学習及び生活指導に当たる担任の補助等を行う。 2 教育アドバイザーの配置 特別支援教育アドバイザーとして、各小・中学校を訪問し、授業参観等を通して、特別支援教育の具体的な支援方法や学校の支援体制について助言を行う。 3 GIGAスクールアシスタントの配置 各小・中学校に情報端末を整備したことに伴い、その操作支援等を行う。 【支援員等配置人数及び決算額】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th rowspan="2">支援員数 (人)</th><th colspan="4">内訳</th><th rowspan="2">教育 アドバイザー (人)</th><th rowspan="2">GIGA スクールア シスタント (人)</th><th rowspan="2">決算額 (千円)</th></tr> <tr> <th>①学校生活 支援員</th><th>②日本語指 導支援員</th><th>③学校生活 支援員 (看護師)</th><th>④複式学級 支援員</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td><td>61</td><td>57</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>5</td><td>125,346</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>62</td><td>56</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>6</td><td>135,052</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>63</td><td>57</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>6</td><td>136,194</td></tr> </tbody> </table>									支援員数 (人)	内訳				教育 アドバイザー (人)	GIGA スクールア シスタント (人)	決算額 (千円)	①学校生活 支援員	②日本語指 導支援員	③学校生活 支援員 (看護師)	④複式学級 支援員	R3	61	57	1	1	2	1	5	125,346	R4	62	56	1	1	4	1	6	135,052	R5	63	57	1	1	4	1	6	136,194
		支援員数 (人)	内訳				教育 アドバイザー (人)	GIGA スクールア シスタント (人)			決算額 (千円)																																					
			①学校生活 支援員	②日本語指 導支援員	③学校生活 支援員 (看護師)	④複式学級 支援員																																										
	R3	61	57	1	1	2	1	5	125,346																																							
R4	62	56	1	1	4	1	6	135,052																																								
R5	63	57	1	1	4	1	6	136,194																																								
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった																																															
	学校生活支援員等の配置により、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対し、きめ細かな支援ができている。このことが学習環境の整備にもつながり、支援が必要な児童生徒だけでなく、他の児童生徒の学習意欲の向上に結びついている。 また、教育アドバイザーによる学校及び学級の支援体制や支援方法についての助言によって、より一層、特別支援教育の充実を図ることができている。 GIGAスクールアシスタントについては、各校の実情に応じた支援が行われ、ICT活用推進、教職員の活用スキル向上に効果を発揮した。																																															

課 題 等	児童生徒数が減少傾向にある一方で、発達障がい等があるなど支援を要する児童生徒は増加傾向にある。 令和２年度からの会計年度任用職員制度の実施に伴い、人件費の増額が見込まれるため予算の確保を含め、対応する支援員の体制を整えていくことが課題である。
外部評価 有識者の 意見・評価	●様々な配慮が必要な児童生徒にきめ細かな支援を行うために支援員を配置する本事業は、学校にとりましては必要不可欠な事業であり、相応の予算で事業を実施していることは、評価できることだと思います。少子化により児童生徒の人数は減っていますが、支援を必要とする児童生徒は増えているということから、児童生徒がより充実した学校生活を送るためにも、要望のある支援員数を確保して学校に配置できるように今後ともご努力いただきたいと思います。また、GIGAスクールアシスタントにつきましても、効果がでていることから継続して事業を実施できるようにご努力いただきたいと思います。 ◆GIGAスクールなど新しい事業への取り組みや特別な支援を要する児童生徒数の増加などにより、学校運営上、学校生活支援員は重要な戦力になっています。また、児童生徒数の減少により複式学級を設置せざるを得ない学校も増えると予想されます。教員志望者の減少や学校現場の働き方改革が注目されている今こそ、本事業は重要な施策です。市のご理解を得て、毎年増員されていると聞いていますが、今後もさらなる増員を願います。

事務事業の点検・評価表

	番号	3	分野	学校教育	担当課	教育指導課
事業名	部活動指導員配置事業					
事業の目的	学校の働き方改革の支援で、教員の部活動に係る勤務時間の軽減を図る。					
事業の実施状況	事業費		1,017千円			
	1 部活動指導員（会計年度任用職員）の配置 協和中学校（柔道部・ソフトテニス部）2名、中仙中学校（男子バスケットボール部）1名、平和中学校（ソフトテニス部）1名を配置。 ①成果目標：担当教員の時間外勤務の削減を図る。 ②成果指標：担当教員の時間外勤務を年間210時間以上削減する。 ③成果実績：担当教員の業務時間が、協和中学校で387時間、中仙中学校で210時間、平和中学校で210時間減少した。 達成率 $(387時間 + 210時間 + 210時間) \div 840時間 \times 100 = 96.07\%$ 〈参考〉 ・令和4年度は2名の部活動指導員を配置。 ・令和6年度より文化部への配置も開始する。年度当初は運動部5名、文化部3名を配置。 ※運動部：大曲中、平和中、中仙中、協和中、仙北中 文化部：大曲中、大曲南中、南外中					
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった					
	専門的な知識や技術等をもち部活動担当となる教員の精神的な負担や、指導、大会等の引率が必要でなくなり、部活動に係る業務時間が大きく削減された。目標をほぼ達成し、業務改善になった。					
課題等	業務改善と地域移行の面で大変有意義な事業であり、今後、希望する学校、部活動が増えることが予想されるため、予算及び人材の確保が課題となる。国や県又は中体連等の部活動の在り方について、注視していく必要がある。					
外部評価 有識者の 意見・評価	●本事業の目的は、教職員の働き方改革の支援であり、事業の実施により目標を達成できたことは評価できることです。ただし、教員の働き方改革という大きな目標のための一つの事業であることから、本事業の結果と効果を検証し、働き方改革に役立つようにしていただくとともに、本来の目標である、「部活動の地域移行」が早期に達成されるように今後ともご努力いただきたいと思います。 ◆中学校部活動の地域移行は、大きな課題になっていますが、解決へのハードルはかなり高いと思われます。特に人材の確保は、都市部と違って地方では難しい問題です。地域のスポーツクラブやスポ少等、現在活動している団体等との連携も検討する必要があります。報道によれば、競技人口の少ない競技の全国大会が中止になるようですが、唐突な決定で、学校現場は動揺していると聞いています。中体連とも十分情報を共有し、子どもたちが安心して競技に打ち込める環境を整備していただきたいと思います。 部活動指導員が配置されている学校にとっては、たいへんありがたい事業ですが、その他の学校へのご配慮もお願いいたします。					

事務事業の点検・評価表

	番号	4	分野	学校教育	担当課	施設管理課												
事業名	学校施設改修事業費																	
事業の目的	学校施設の改修・整備を図り、児童生徒がより快適に学べる環境を提供することを目的とする。																	
事業の実施状況	事業費		459,909千円															
	【主な改修工事】 1 体育館屋根改修工事（神岡小） 2 校舎屋上防水改修工事（西仙北中） 3 高圧受電設備改修工事（花館小・神岡小・大曲中） 4 職員室他空調設備改修工事（大曲小・協和小） 5 音楽室空調設備改修工事（大曲中） 6 トイレ改修工事（花館小・西仙北小・横堀小・西仙北中） 7 昇降機改修工事（四ツ屋小）																	
	【学校施設改修事業費の推移】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td></tr> <tr> <td>決算額</td><td>535,169千円</td><td>408,829千円</td><td>257,461千円</td></tr> <tr> <td>主な改修事業内容</td><td>花館小増築 小学校空調</td><td>中学校空調</td><td>小中学校トイレ</td></tr> </table>							令和2年度	令和3年度	令和4年度	決算額	535,169千円	408,829千円	257,461千円	主な改修事業内容	花館小増築 小学校空調	中学校空調	小中学校トイレ
		令和2年度	令和3年度	令和4年度														
決算額	535,169千円	408,829千円	257,461千円															
主な改修事業内容	花館小増築 小学校空調	中学校空調	小中学校トイレ															
自己評価	☐ 順調に達成した ☒ 達成したが課題があった ☐ おおむね達成した ☐ 達成できなかった																	
	これまで国交付金事業等の活用を図りながら進めてきた便器の洋式化とあわせたトイレ全面改修については、全小中学校での整備が令和5年度で完了し、全体の9割で洋式化が図られた。残り1割についても便器更新による整備を計画的に進めるとともに、各学校施設において必要な改修工事について、今後も国交付金事業等の活用を図りながら計画的に実施し、快適で安全な教育環境の提供に努める。																	
課題等	市内小中学校の校舎及び屋内運動場については、全体の70%以上が建築後30年以上経過しており、老朽化による不具合発生も頻発していることから、今後も多額な経費を要することが見込まれる。大仙市学校施設長寿命化計画に基づき、予防保全的改修を計画的に実施することで、改修費の抑制と予算の平準化を図る必要がある。																	
外部評価 有識者の意見・評価	●トイレの洋式化については、早期に事業実施され全体の9割で洋式化が図られたことは大変評価できることです。市の財政状況によりまして、予算要求してもなかなか措置されない現状にあることは理解しておりますので、予算措置された事業が実施できたことについては評価できると思います。大仙市内には小中学校が30校ありますが、その7割以上が建築後30年以上経過した建物である現状に鑑みて、令和5年度の事業実施件数が全体で7か所、うち補助事業が5か所、単独事業は2か所という結果は、事業実施を要望している全件数に対して3割程度であり、児童生徒がより快適に学べる環境を提供するという本事業の目的を達成するために、その割合を少しでも引き上げることができるようご努力をお願いしたいと思います。 ◆多くの学校が老朽化しており、学校からは多くの要望が出されています。緊急性を考慮しながら、予算をにらみ苦しい対応をされていることと思います。しかし、最善の努力をしても、今後、学校施設の改築や学校統合にともなう校舎新設は避けて通られない大きな課題になります。かなり長期的な見通しをもって学校の統廃合を進めていく必要があると思います。地域の思いを大切にしながらも、県立高校の再編や他市町村の事例などを参考にしながら、市教委主導の思い切った計画も求められるような気がします。																	

事務事業の点検・評価表

	番号	5	分野	芸術文化	担当課	生涯学習課
事業名	ふるさとの偉人再発見事業					
事業の目的	大仙市の未来を担う子ども達のために、政治、経済の発展や文化の振興など、ふるさとの発展に尽くした人々やその業績により交流人口の創出に寄与した人物など後世に伝えたい大仙市にゆかりのある偉人の活躍に触れ、その考え方や生き方を学ぶ機会を創出する。					
事業の実施状況	事業費		0千円			
	大仙市に縁のある偉人・先人に関して、現在市が把握している情報を集約したデータバンクを作成し、子どもたちへの「ふるさと教育」の推進に繋げる。 ◇「だいせん偉人・先人データバンク」作成進捗状況 市HP上にデータを公開し、広く子どもたちがその情報を活用できる仕組みを構築中（令和6年3月31日現在） ・大曲地域：5名（落合東堤、奈良専二、ブルーノ・タウト、田口松圃、寺邑政徳） ・神岡地域：5名（檜岡齊軒、菅原政實、斎藤新三郎、桜田鉄之助、富樫武治） ・西仙北地域：5名（佐々木雪洞、根本通明、高根清信、池田亀治、稲村容作） ・中仙地域：5名（草薨理佐エ門、花津谷栄、三浦孫一、加藤長太郎、高橋市蔵） ・協和地域：5名（加藤景澄、茂木徳治、進藤作左衛門、堀松和二郎、物部長穂） ・南外地域：5名（半田忠蔵、八嶋竹治、伊藤恭之助、伊藤徳五郎、高見金一郎） ・仙北地域：5名（出原帰耕、池田孫一、後藤宙外、池田文太郎、加才信夫） ・太田地域：5名（鈴木治三郎、鷹觜彦吉、金本光之、大信田如水、高橋瑩奏）					
自己評価	☐ 順調に達成した ☐ 達成したが課題があった ☒ おおむね達成した ☐ 達成できなかった 令和5年度からの新規事業であるが、大仙市の歴史に足跡を残した著名な人物の情報を収集したデータバンクを作成し「だいせんの偉人・先人たち」を紹介することで、郷土への愛着と誇りを持つことができ、その人物の功績や考え方、生き方を学ぶ機会の創出につながったと認識している。 なお、データバンクに関しては、旧市町村で編さん・発行した資料や、市の歴史・文化にかかる図書等から情報を収集し、順次更新していく予定。					
課題等	今後は市民や各種団体からも情報提供していただきながらデータバンクの情報について充実を図っていく必要がある。また、地域と協働する教育の推進や、学校と地域が連携した生涯学習機会を創出する取り組みの強化を図っていく必要がある。 【取り組み例】 ①「ふるさと探訪楽園ツアー」に「本市にゆかりのある偉人や地域の発展に尽くした先人の学習機会の創出」を新たなメニューとして追加。 ②学校と地域の連携による体験活動等を通じた「ふるさと教育」の推進。					
外部評価 有識者の意見・評価	●大仙市の未来を担う子供たちが、ふるさとの発展につくした偉人・先人について学ぶ機会を創出した本事業は、小中学校が実施している「ふるさと教育」と連携し実施することでより効果が出てくると予想され、評価できる事業であると思います。ただし、事業の実施が令和5年度末ということで、今はデータベースが完成した段階で、利用はこれからという状況ですので、令和6年度以降に利用状況などを検証し、さらにアップデートされた事業にしていきたいと思っています。 ◆これまでデータを収集した各地域の「偉人・先人」の半数以上が初めて目にする名前でした。 データの収集と整備には大変ご難儀されたことと思います。新しい事業ですので、周知や活用等は今後の課題のようですが、有意義な事業にしていきたいと思っています。子どもたちを対象とした事業のようですが、内容的には大人にもぜひ知っていただきたいものです。「ふるさと探訪楽園ツアー」とのタイアップなど実現できますようご努力をお願いいたします。教育指導課で作成している社会科資料（データ）との連携もいかがでしょうか。					

事務事業の点検・評価表

	番号	6	分野	生涯学習	担当課	花館公民館
事業名	四ツ屋まつり					
事業の目的	公民館サークルや小中学生の発表の場のほか、子ども園、小学校、青年塾などが「大型花火灯籠」「子ども花火灯籠」を製作し町内を練り歩き、誰でも参加が出来る地域のまつりになることを目的としている。					
事業の実施状況	事業費		1,600千円			
	日 時：令和5年10月8日（日） 会 場：四ツ屋小学校駐車場（公民館改築のため）、四ツ屋公民館（展示コーナー） 来場者数：約1,200名 内容（演目）：出店コーナー、展示コーナー（パッチワーク、押し花、書道等） ：ステージ発表（小中学校器楽、こども園、日舞、エレキ演奏等） ：おまつり広場（花火灯籠展示、よきこい、打上げ花火等） ：特別企画（熱気球搭乗体験） ◇定番企画【出店コーナー、展示コーナー、ステージ発表、おまつり広場】 ○令和4年特別企画 ・「曲高書道部パフォーマンス」「大農郷土芸能部」 ※来場者 約1,000人 ○令和3年特別企画 ・コロナにより定番の企画は中止し、FM花火ライブ放送による「レクチャー花火」と、児童の「夢花火」を企画 （コロナ回避の為、自宅でFM花火を聞きながら花火鑑賞） ※来場者 約80人（「夢花火」の6年生、保護者のみ） ○過去の特設企画 ・「わらび座ミュージカル」「超人ネイガー」など					
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ 達成したが課題があった					☐ おおむね達成した ☐ 達成できなかった
	・団塊ジュニア世代が「子供の頃、まつりや盆踊り大会へ親に連れられて行き、楽しかったという思いから、今はそんな行事がなくなり、子供たちが可哀そうだ」から始まり、14回をむかえ、地域のビックイベントとして定着し、大変好評を得ている。 ・準備から後片付けまで、「四ツ屋商工青年部」と「四ツ屋青年塾」からの支援のほか、近隣の若者の協力により、まつりが盛り上がっている。 ・今年度、四ツ屋小学校創立150周年記念事業と連携し、更なる地域との繋がりを大事にし活性化を図る。					
課題等	・実行委員の大半が発足当時のメンバーであり、世代交代が望まれている。少子高齢化の影響により、年々園児、児童が少なくなり、中核となる保護者の不足が懸念されている。更なる、近隣の若者とのつながりが必要と思われる。 ・まつりのシンボルである「大型花火灯籠」の老朽化により、新しい「大型花火灯籠」の製作が急務となっている。					
外部評価	●誰でも参加できる地域のまつりを目的に開催された事業ですが、出店や展示、ステージ発表などの企画を準備され、さらには特別企画も毎年用意されるなど、とてもにぎやかなお祭りだと思います。来場者数も約1,200人位と大変多く、事業として成功されており評価できる内容になっています。少子高齢化の影響で実行委員会のメンバーなどにも課題が出てきているようですが、引き続き開催できるようにご努力いただきたいと思います。					
有識者の意見・評価	◆花館公民館の取り組みの充実ぶりには注目しています。だいぶ前ですが、閉校事業の運動会を盛り上げるために聖火台をお借りしたことがありました。聖火台のような備品を持っていることに大変驚きました。その節はありがとうございました。今回は、四ツ屋まつりについてご説明いただきましたが、地域が一体となった取り組みで、1,200名の来場者数というのは公民館事業として素晴らしい成果だと思います。子どもたちにとって、ふるさとの楽しい思い出として心に永遠に刻まれることと思います。担い手の世代交代という課題を克服し、ますます充実したお祭りになることを願っています。					

事務事業の点検・評価表

	番号	7	分野	生涯学習	担当課	神岡中央公民館
事業名	おもしろ講座					
事業の目的	歴史や文化、自然科学など様々な分野の専門家を講師に招き市民講座を開催し、学ぶ楽しさを体感しながら自己の知識や教養を深めるとともに生涯学習の推進や郷土理解を図る。					
事業の実施状況	事業費		167千円			
	平成4年8月に「郷土史おもしろ講座」として開講し、当初は郷土の歴史や文化をテーマとしていたが、郷土史に限定せず幅広い分野のテーマを盛り込むため「おもしろ講座」と名称を変更した。令和6年3月で通算356回を数えている。 1. 開催期日 令和5年5月17日～令和6年3月13日まで (1月を除き月1回・全10回開催) 2. 開催場所 かみおか嶽雄館ビデオシアターホール、 神岡農村環境改善センター多目的ホール 他 3. 講座内容 歴史・民俗5回、自然・科学2回、地域3回 4. 受講者数 R3年度 申込数63人 延べ受講者数356人 R4年度 申込数63人 延べ受講者数366人 R5年度 申込数60人 延べ受講者数389人					
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった					
	・テーマが豊富で年間を通して受講できることから受講者に喜ばれている。 ・神岡町時代から公民館の講座として開設、合併後は口コミで人気が高まり地域外からの受講者も確保できている。※R5は23人／60人（38.3%） ・市の広報で情報提供することにより単発で聴講される方もおり、講座の活性化につながっている。 ・県庁の出前講座等を活用することで経費を削減している。また、希望ジャンルのアンケート調査を行い、講座全体の内容の充実を図っている。					
課題等	・受講者確保のために常にニーズの把握に努めているが、限られた予算での講師の確保が課題となっている。 ・受講者数は横ばいであるが、高齢者世代が中心であることから、より若い世代に興味を持ってもらえるテーマを検討し、新規受講者の拡大に努める必要がある。					
外部評価	●年間を通して開催される市民講座の受講申込数が過去3年間とも60人を超えており、実績としては十分ありますので大変評価できます。地域外からの申し込みもあるなど、人気のある講座も開催されていることから、今後も期待できる事業となっていると思います。課題に、限られた予算内で講師を確保することを挙げられておりますが、工夫されまして事業が継続できますように願っております。					
有識者の意見・評価	◆年間10回の講座の開設を継続できていることは、講師の確保など、担当者の並々ならぬ努力の賜だと思います。地域外からの受講者を受け入れるなど、開かれた公民館としての役割も十分に果たされています。若い世代に受講者を拡大するという難しい課題をあげておりますが、大事な視点だと思います。予算との兼ね合いがあると思いますが、市内在住の著名人（若い世代にも魅力ある著名人など）へのアタックなど模索していただければと思います。今後の活動のますますの充実を期待しています。					

事務事業の点検・評価表

番号	8	分野	芸術文化	担当課	大綱交流館
----	---	----	------	-----	-------

事業名	にしせんぼく文化祭			
事業の目的	西仙北地域住民の芸術文化活動の発表と各種作品の鑑賞の機会を広く提供することにより、文化の香り高いまちづくりに資するとともに、幅広い世代間交流を図ることを目的とする。			
事業の実施状況	事業費		68千円	
	1 開催日 令和5年10月28日（土）～29日（日） 2 後援 大仙市商工会、秋田おばこ農業協同組合西仙北総合支店 3 内容 （1）展示（一般、芸術文化協会西仙北支部、保育園児、小中学生） 生け花、書道、絵画、彫刻、塑像、写真、焼物、手芸・手工芸品、短歌、俳句、川柳、菊花 （2）短歌大会 （3）お茶会 （4）芸能発表会（一般、芸術文化協会西仙北支部、保育園児、中学校吹奏楽部） （5）協賛行事 西仙北地域生涯学習奨励員作品展示、出庫市（大仙市商工会）、直売会（JA西仙ふれあい直売部会・大綱の里直売所）、図書館まつり （6）その他 キッチンカー、新規業者による出店 4 実績数 令和3年度 73人 345人 418人 令和4年度 167人 705人 872人 令和5年度 202人 1,933人 2,135人			
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった コロナウィルス感染症の第5類への移行に伴い、令和5年度から例年どおりに開催した「にしせんぼく文化祭」だが、新たな取組として芸能発表会に保育園児と中学生が出演し、屋外（駐車場内）では、キッチンカーの出店やおはなし会を開催した結果、幅広い世代の参加者、来館者が増え実績数を大幅に増やすことができた。 また、限られた予算の中、新たな取組を実施する上で大仙市芸術文化協会西仙北支部、後援団体、保育園、小中学校及び地域住民との連携をこれまで以上に強化し、協力を得られたことも実績数を大きく増やすことができた一因となった。			
課題等	来場者数が大幅に増えているため駐車場の確保が緊急的な課題となっている。臨時駐車場は、確保しているものの会場までが遠いなどの理由により駐車しない場合がある為、来場者へ臨時駐車場利用の理解を求めていかなければならない。			
外部評価	●コロナ禍から脱して開催された「にしせんぼく文化祭」は企画を新たにして開催され、協賛行事やキッチンカーの出店などもあり、来館者が大幅に増えたことは大いに評価すべきことだと思います。事業の目的である世代間交流も図られていることから、これまで実施してきた「にしせんぼく文化祭」が新たな体制で事業を実施され、今後も継続されますことを期待したいと思います。課題として挙げられた、駐車場の確保について解決が図られますことを願っております。			
有識者の意見・評価	◆コロナ以前の文化祭に戻ただけでなく、保育園児や中学生を巻き込んだりキッチンカーの出店開催など新たな取り組みにもチャレンジされていることが素晴らしいです。それが、参加者を含めて二千名を超える盛大な文化祭につながったと思います。駐車場の確保が課題になっていますが、臨時駐車場からバスの運行や、休耕地の駐車場化など、今年度の開催までによりよい方策を模索していただきたいと思います。地域行事とはいえ、話題性のあるキッチンカーの参加要請やクラフト市の開催など、工夫次第では他地域からの来場者も増え、地域の活性化にもつながりそうな気がします。			

事務事業の点検・評価表

	番号	9	分野	芸術文化	担当課	中仙公民館
事業名	なかせん芸術文化祭					
事業の目的	中仙地域の芸術文化発表と鑑賞の機会を提供することにより、芸術文化活動に対する活動と参加意欲を高め、交流を継続するとともに次世代へつなぐ芸術文化の振興発展を目的とする。					
事業の実施状況	事業費		284千円			
	1 開催日	作品展示 令和5年11月4日（土）・5日（日） 芸能発表 令和5年11月5日（日）				
事業の実施状況	2 開催場所	中仙市民会館ドンパル				
	3 内容	・大仙市芸術文化協会中仙支部芸術文化賞授賞式 ・作品展示 俳句、短歌、篆刻、飾り花結び、デコクレイクラフト、手芸、表装、油絵、書道 保育園児作品 ・芸能発表 日本舞踊、コーラス、よさこい、大正琴、吹奏楽 ・令和2年度 中止 ・令和3年度 中止 ・令和4年度 作品展示 73点 芸能発表 中止				
自己評価	☐ 順調に達成した ☐ 達成したが課題があった		☒ おおむね達成した ☐ 達成できなかった			
	令和4年度は作品展示のみの開催で、芸能発表は4年ぶりの開催となった。コロナ禍前の参加数とほぼ変わらない16団体からの発表があり、また、作品展示も200点と盛会に開催することができた。 ポスター・チラシによる地域住民への周知を図り、多くの来場者を迎えることが出来た。 芸術文化団体の発表機会を設けることで、団体同士での交流や親交を図ることができた。					
課題等	・近年、芸術文化協会中仙支部会員の高齢化が進んでいることや、新規の会員が入らないなどの理由で団体数が減少している。					
外部評価	●芸術文化祭は、合併前の市町村ごとに実施されていますが、中仙地域の文化祭はその規模も大きく芸能発表の参加団体数も多いことから盛大に開催され、大いに評価できる事業となっております。評価表には、作品展示や芸能発表の来場者数の記載はありませんので、具体的な人数での評価ではありませんが、今後は参考数値でも構いませんので、来場者数なども記載いただければありがたいと思います。課題として、芸術文化協会の会員の高齢化や新規会員の不足をあげておりますが、この点については市全体の課題でもあると思いますので、将来に向けて検討していただきたいと思います。					
有識者の意見・評価	◆今回は、なかせん芸術文化祭の取り組みについてご説明いただきましたが、中仙公民館ではドンパルを活用したさまざまな事業に取り組んでおられます。この、文化祭を他の事業との抱き合わせで実施することも賑わい創出につながるように思います。作品展示では、保育園児作品だけでなく、小中学校にも作品の展示を依頼してはいかがでしょうか。特に、中仙中学校美術部の作品は、地域の方々にもぜひとも鑑賞していただきと思います。芸術文化協会中仙支部所属の団体数の減少が課題のようですので、事業の目的との兼ね合いがあると思いますが、協会所属の枠にとらわれない幅広い参加者の募集も検討してはいかがでしょうか。					

事務事業の点検・評価表

	番号	10	分野	芸術文化	担当課	協和公民館
事業名	市民会館自主事業「定期能公演」、「演劇」（協和小学校芸術鑑賞会）					
事業の目的	優れた日本の伝統文化、芸能を身近に鑑賞する機会を提供し、市民の芸術文化意識を高めとともに、地域の発展と向上に資する事を目的とする。					
事業の実施状況	事業費		6,479千円			
	平成2年度に、ふるさと創生事業の一環として建築された「まほろば唐松能楽殿」は、県内唯一の能楽殿であり、屋外で演じられていた能本来の姿を伝えてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により令和元年度から令和4年度までは公演を見送っていたが、令和5年度からようやく再開することができた。日本の伝統芸能である「能」の幽玄の世界への誘いは、県内外の愛好者を始め幅広い世代へ伝えられ成果を上げている。 また、演劇「ウラシマ コタロウ」については、文化庁の補助を頂き誰もが知っている『浦島太郎』を大胆にアレンジし、笑いと感動の友情物語として生まれ変わった一人の少年に起こる、小学生最後の夏の奇跡の物語を題材に、市民参加型の演劇を提案し子どもから大人まで幅広い世代でワークショップを開催して、お互いが協力する事で支え合いの地域づくりに貢献できたと感じている。また、演劇の練習や本番でも協和小・中学校の児童・生徒や芸術文化協会の会員等と様々な方々が共演し、無事に公演を終える事ができた。					
	※ 定期能公演 令和3年度 喜多流（中止）、令和4年度 観世流（中止）、 令和5年度 喜多流 来場者 約200人 事業費 3,901千円 収入 1,867千円 ※ 演劇「ウラシマ コタロウ」初開催 事業費 2,578千円 収入 1,840千円					
自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった					
	能舞台のあるまちとして、周辺地域にも知られ他市町村の団体、高齢者大学や女性会議等の見学も増えてきている。 能公演については、令和6年度から喜多流の隔年開催に変更をすることになっているが、多くの世代に喜んでいただいていると感じている。今後も日本の伝統文化に触れ、本物の芸術を鑑賞できる機会として、多くの人に周知し豊かな心を育むきっかけとなるよう承継していきたい。 また、演劇についても世代間交流でワークショップや演劇のプロと舞台で共演出来た事は、子ども達の今後の糧となる事業で有意義な時間であったと感じている。					
課題等	少子高齢化が進み愛好者の減少が著しく、今後は集客につながる工夫や対策を講じる必要がある。 また、文化庁や財団等の芸術鑑賞の補助を受けられる事業を活用し実施したいと考え、令和6年度に向けた財団の補助事業に申し込みをしたが、残念ながら選定されなかったため、今後も積極的に申し込みを継続し、新たな事業に繋げて行きたい。					

外部評価 有識者の 意見・評価	●県内唯一の能楽殿である「まほろば唐松能楽殿」野外公演は、県内外の愛好者をはじめ幅広い世代の方に親しまれており、本格的な日本の伝統文化に接することができる貴重な体験であることから、事業として実施されることは大いに評価できると思います。また、協和小学校の芸術鑑賞会と兼ねて行われる演劇鑑賞も、文化庁の補助事業に選定されて実施するなど、より効果的な事業として実施されており、大変評価できるものとなっております。今後についても、能公演については継続して実施していただきたいところですが、課題等にもあるように愛好者の減少など難しい面もあるかと思っています。また、演劇に関しても補助事業に選定されない場合など、単独事業として可能な限り実施していただくなどご検討をお願いします。 ◆県内唯一の「能舞台」は、地域の大事な財産です。身近な場所で「能」を鑑賞できるということは大変恵まれた環境にあると思います。しかし、多額な財政負担を考えると能公演の隔年開催は適切な判断だと思います。その一方で、能舞台の多様な活用について何らかの手立てが必要だと思います。これまでも様々な活用が模索されているようですが、小中学校との連携も可能性の一つになるかもしれません。
--------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

	番号	11	分野	芸術文化	担当課	南外公民館
事業名	なんがい地域祭					
事業の目的	南外地域の学習及び活動の総決算として、その成果を一堂に会して発表することにより、芸術文化に親しむ喜びを共有し、創造と伝統文化の継承に資すると共に地域全体で芸術文化を盛り上げる。また、農産物の品質向上と生産意欲の向上に努めると共に南外地域の農業を広く地域住民に紹介し農業振興に資する。地域住民の相互理解を深め、元気で明るく活力ある地域社会の再構築に寄与することを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		540千円			
	地域の芸能団体、JA、商工会などで実行委員会を立ち上げて事業を実施している。地域の芸術文化団体の作品展示や芸能発表に加えて、こども園や小中学校の作品展示やステージ発表、農産物の品評会と野菜などの販売、JA女性部による食堂などを行っている。加えて、例年、小中学校の協力により、小学校で育てた米に関する学習発表と販売などを行ってきたが、今回は中学生がさいかい市のスイーツパッケージをデザインし、スイーツの販売を行った。また、今年度は、大仙市国際交流協会との共催で国際フェスティバルも同時開催し、小中学生や高校生などが民族衣装のファッションショーにも参加している。 【開催日時】 令和5年10月29日（日） 9：00～15：00 【開催場所】 南外コミュニティセンター、支所前駐車場（車庫を含む） 南外公民館（南外図書館を含む） 【参加者数】 令和2年度 約300人（作品展示、農産物品評会、農産物販売のみ） 令和3年度 中止 令和4年度 約700人（ステージ発表を再開） 令和5年度 約1200人（食べ物の販売や飲食スペースを再開）					
自己評価	☐ 順調に達成した ☐ 達成したが課題があった ☒ おおむね達成した ☐ 達成できなかった					
	地域住民と市とが協同でイベントを実施することにより、相互の信頼関係や連帯感がより一層深められ、活動を中止していた芸能団体や食堂を担当したJA女性部などもこの祭りに参加し、祭りを盛り上げている。また、農産物品評会や農産物の販売を続けることで、安全・安心な地元農産物を身近に感じ、地産地消の拡大や農業への関心にもつながっているものと考えている。さらに、高齢者だけの世帯が増えており、小・中学生や園児のステージ発表や作品展示が、地域住民に元気を与えているとも感じている。					
課題等	人口減少や高齢化によりステージ発表の出演者が減っている。農家の減少によりこれまで品目ごとの表彰を行ってきた農産物品評会でも農産物全体での表彰となった。食堂スタッフなどのボランティアを担うJA女性部や商工会青年部なども高齢化し激減しており、コロナ自粛中に解散した団体も多い。団体活動の援助や個人で活動する方への周知、ボランティアの育成などに力を入れていきたい。					

外部評価 有識者の 意見・評価	●地域住民と各種団体そして地域公民館が協同でイベントを開催することで相互の連帯感が深められ、また新たな企画も取り入れるなど、開催する側の盛り上りが約1200人の参加者をあつめることにつながっていると考えられ、大変評価できる内容になっております。課題について、人口減少や高齢化により芸能発表の減少や農産物の出品数の減少をあげておりますが、他の地域も同様ですので今後の検討課題としていただきたいと思います。 ◆小中学校を巻き込んだことが参加者の増加につながっていると思います。特に、中学生がパッケージをデザインしたり、ファッションショーに参加したりと、企画や運営に関われたことは、中学生にとっても地域を身近に感じ、ふるさとへの思いを強くする機会になったことと思います。今後も継続していただきたいと思います。約1200人という参加人数は素晴らしい成果だと思いますし、それだけ地域の方々は、イベントへの期待感が大きいと思われます。担当者の負担が大きくなると思いますが、2日間開催を検討してみてもいいのではないでしょうか。
-----------------------------------	--

事務事業の点検・評価表

番号	12	分野	生涯学習	担当課	仙北公民館
----	----	----	------	-----	-------

事業名	放課後子ども教室推進事業「サタデーキッズパーク」																																																									
事業の目的	この事業は、地域の宝である子供たちに、安全・安心な居場所（活動拠点）を設け、様々な体験活動や交流活動等の場を提供することで、心豊かでたくましく育っていくために支援することを目的とする。																																																									
事業の実施状況	事業費		454千円																																																							
	土曜日の午前中、ふれあい文化センターの一室を子供たちの安全・安心な遊び場として開放している。おもちゃや遊具等を備え自由に遊べる空間を提供し、教育活動サポーター3人が見守りしている。また、季節ごとに体験型イベントも実施している。 ■期 間：5月20日～2月24日の土曜日の午前中（全35回） ■場 所：ふれあい文化センター シルバーホール ■対象者：幼児から中学生（未就学児は保護者同伴） ■内容及び実績等：次のとおり R5 体験型イベント実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月24日</td><td>七夕飾り付け、アサガオ植え付け</td></tr> <tr> <td>7月29日</td><td>子ども夏まつりデラックス</td></tr> <tr> <td>8月26日</td><td>花火絵、紙コップロケット作り</td></tr> <tr> <td>9月23日</td><td>紙コップロケット、紙コップバズーカ作り</td></tr> <tr> <td>10月22日</td><td>「史跡の里の秋まつり」へ協力</td></tr> <tr> <td>11月25日</td><td>クリスマスツリー飾り付け</td></tr> <tr> <td>12月9日</td><td>クリスマスリース作り</td></tr> <tr> <td>2月3日</td><td>ゆきんこまつり</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="5">過年度実績</th></tr> <tr> <th>幼児</th><th>小学生</th><th>中学生</th><th>高校生 大人</th><th>計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td><td>122</td><td>137</td><td>2</td><td>199</td><td>460</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>16</td><td>127</td><td>1</td><td>17</td><td>161</td></tr> <tr> <td>R3</td><td>21</td><td>115</td><td>4</td><td>37</td><td>177</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>32</td><td>161</td><td>0</td><td>52</td><td>245</td></tr> </tbody> </table> ※秋まつり参加人数除く					実施日	内 容	6月24日	七夕飾り付け、アサガオ植え付け	7月29日	子ども夏まつりデラックス	8月26日	花火絵、紙コップロケット作り	9月23日	紙コップロケット、紙コップバズーカ作り	10月22日	「史跡の里の秋まつり」へ協力	11月25日	クリスマスツリー飾り付け	12月9日	クリスマスリース作り	2月3日	ゆきんこまつり		過年度実績					幼児	小学生	中学生	高校生 大人	計	R5	122	137	2	199	460	R4	16	127	1	17	161	R3	21	115	4	37	177	R2	32	161	0	52	245
	実施日	内 容																																																								
6月24日	七夕飾り付け、アサガオ植え付け																																																									
7月29日	子ども夏まつりデラックス																																																									
8月26日	花火絵、紙コップロケット作り																																																									
9月23日	紙コップロケット、紙コップバズーカ作り																																																									
10月22日	「史跡の里の秋まつり」へ協力																																																									
11月25日	クリスマスツリー飾り付け																																																									
12月9日	クリスマスリース作り																																																									
2月3日	ゆきんこまつり																																																									
	過年度実績																																																									
	幼児	小学生	中学生	高校生 大人	計																																																					
R5	122	137	2	199	460																																																					
R4	16	127	1	17	161																																																					
R3	21	115	4	37	177																																																					
R2	32	161	0	52	245																																																					
自己評価	☐ 順調に達成した ☐ 達成したが課題があった ☒ おおむね達成した ☐ 達成できなかった																																																									
	○通常キッズの様子は、コロナ禍を引きずっているのか否か、参集人数は少し寂しいものを感じられた。サポーターとともに分析した結果、新しい居場所（スポ少・習い事）が出来たのではないかとの見解に至った。 ○月に一度の体験型イベントになるとほんの少し増え、更にお祭りイベントともなれば、多くの親子連れが参加してくれた。加えて夏祭りの際には、他の地域であったが子供会行事として参加してくれた親子もいた。 ○中学生や高校生の中には、自分も遊びに来ていたということで、顔を出してくれたり手伝ってくれたり、学年を越えた交流が図られていることから、子供たちの心の成長にも貢献できている。 ○参集人数が少ないから多いからというような事業ではなく、いつでも土曜日の午前中は”サタデーキッズパーク”という居場所が在り、在り続けることが大事なことだと考えるので継続していきたい。 ○子供の居場所づくりとして役を成していることから、有効な事業として評価している。																																																									
課題等	子どもたちに関わることが大好きな教育活動サポーターで感謝に堪えない。 一方で、サポーターの年齢層が50代～80代で、ある意味世代間交流が出来ているが、後継者の確保が大きな課題となっている。																																																									

外部評価

有識者の
意見・評価

●本事業は、一般的な放課後児童クラブとは異なり、土曜日の午前中に安全安心な遊びの場を提供し、子供の居場所をつくることで成長を支援するという取り組みをしており、参加者の大小よりも居場所を提供することが目的であることから、評価できる内容になっていると思います。課題としてあげられているサポーターの後継者については、難しいことではありますが検討を重ねて欲しいと思います。

◆「サタデーキッズパーク」の取り組みは、仙北地域の子どもたちには確実に定着し受け入れられている事業になっています。だからこそ、大人や高校生の参加も多いのでしょう。サポーターの高齢化と後継者の確保が課題の一つにあげられていますが、高校生や大学生をボランティアスタッフとして受け入れることは検討の余地があるかと思います。土曜日の午前中に子どもたちの居場所があるということは、子どもにとっても保護者にとっても大変ありがたいことです。ぜひ、今後も継続していただきたいと思います。

事務事業の点検・評価表

		番号	13	分野	生涯学習	担当課	太田公民館																
事業名		花いっぱい運動事業																					
事業の目的		花いっぱい運動は、花に触れ自然に親しみ家庭の融和を図り、心の通う明るい地域づくりを目指す運動で、地域や学校、団体による花だんの整備や花づくり活動によって地域コミュニティの活性化や多世代交流の促進を図ることを目的としている。また「花のまちおおた」として花のまちづくりを進め、太田地域の花育活動（花を教材に生命や個性について考えてもらう活動）の強化と連携を深めることも目的とする。																					
事業の実施状況	事業費		地域枠予算 1,085千円																				
	1 地域花だん活動支援 地域住民と子ども会・太田中学校生徒が植栽し、夏休みには、子ども会・中学生が交替で水やりや地域住民が花だんの草取りなどを行う。地域の環境を整える支援事業で花苗の配布を支援している。																						
	2 太田地域花いっぱいコンクールの実施 毎年8月に、太田地域の家庭・学校・団体等の花だんコンクールを開催。審査員が地域内を巡回し審査し、表彰は10月に行う。																						
	3 全県花だんコンクール応募への支援 全県花だんコンクール応募を取りまとめ、9月の現地審査では、審査箇所日程表の作成と案内を行う。																						
	4 太田花だんフェアの開催（おおた花の会との共催） 9月初めに横沢公園を会場に、団体や個人が育てたプランターや鉢植えを持ち寄り開催する。小・中学生によるマーチングや吹奏楽演奏会、寄せ植え体験講習、学校・個人・団体の花だんを巡るお花見バスを運行する。																						
5 水仙ロード延長事業（球根の植栽） 太田支所が中心となり地域の方々に水仙の球根を提供してくれるよう呼びかけ、秋におおた花の会、地域の方々の協力を得て道路脇に水仙の球根を植える。																							
6 太田シンボル花だん・花の看板の設置 太田地域に入る道路付近に「花のまち」をイメージする看板の設置（4か所）。また中心部にシンボル花だん（1か所）を設置し、「花のまちおおた」をPRする。																							
1 地域花壇 花苗配布数																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>花だん数</td><td>18</td><td>15</td><td>17</td></tr><tr><td>花苗数</td><td>4,130</td><td>5,160</td><td>5,580</td></tr></table>							R5	R4	R3	花だん数	18	15	17	花苗数	4,130	5,160	5,580						
	R5	R4	R3																				
花だん数	18	15	17																				
花苗数	4,130	5,160	5,580																				
2 太田花いっぱいコンクール申込数																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>団体(集落・学校)</td><td>26</td><td>26</td><td>25</td></tr><tr><td>個人(世帯)</td><td>37</td><td>45</td><td>50</td></tr></table>							R5	R4	R3	団体(集落・学校)	26	26	25	個人(世帯)	37	45	50						
	R5	R4	R3																				
団体(集落・学校)	26	26	25																				
個人(世帯)	37	45	50																				
3 全県花だんコンクール申込数																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>団体(集落・学校)</td><td>11</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>個人(世帯)</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr></table>							R5	R4	R3	団体(集落・学校)	11	5	6	個人(世帯)	2	1	2						
	R5	R4	R3																				
団体(集落・学校)	11	5	6																				
個人(世帯)	2	1	2																				
4 花だんフェア 来場者数																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>来場者</td><td>500</td><td>中止</td><td>中止</td></tr></table>							R5	R4	R3	来場者	500	中止	中止										
	R5	R4	R3																				
来場者	500	中止	中止																				
4 花だんフェア プランター出品者・出展数																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td rowspan="2">団体</td><td>人数</td><td>9</td><td rowspan="2">中止</td><td rowspan="2">中止</td></tr><tr><td>個数</td><td>235</td></tr><tr><td rowspan="2">個人</td><td>人数</td><td>7</td><td rowspan="2">中止</td><td rowspan="2">中止</td></tr><tr><td>個数</td><td>103</td></tr></table>							R5	R4	R3	団体	人数	9	中止	中止	個数	235	個人	人数	7	中止	中止	個数	103
	R5	R4	R3																				
団体	人数	9	中止	中止																			
	個数	235																					
個人	人数	7	中止	中止																			
	個数	103																					
5 水仙ロード 植栽距離																							
<table><tr><td></td><td>R5</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>場所</td><td>久保関古館線</td><td>今泉石神線</td><td>今泉石神線</td></tr><tr><td>距離</td><td>200m</td><td>220m</td><td>300m</td></tr></table>							R5	R4	R3	場所	久保関古館線	今泉石神線	今泉石神線	距離	200m	220m	300m						
	R5	R4	R3																				
場所	久保関古館線	今泉石神線	今泉石神線																				
距離	200m	220m	300m																				

自己評価	☒ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった
	・太田地域は、「花いっぱい運動」を昭和36年から進めている地域で、運動は住民に深く浸透している。「地域花だん」の整備や「花いっぱいコンクール」は地域に欠かせない事業となり、地域の繋がりや交流、コミュニティの活性化に役立っている。 ・花だんフェアは、コロナ禍により4年ぶりに、主会場を横浜公園に変更し開催された。主会場を変更したことの不安があったが、地域活性化推進室が太田地域の拠点となっている横浜公園のPRのためイベントを同日開催したことで、結果として相乗効果が生じ高評価を得た。
課題等	・運動の中心的活動をしている、おおた花の会のメンバーが高齢化している。継続的な活動ができるように会員の確保（特に若い世代）が必要である。 ・花だんフェアは主会場の変更や他のイベントとの共催など、新しい局面に進んだ。今後は今までのやり方を継承しつつも、いろいろなニーズに対応できるような工夫していく必要がある。
外部評価 有識者の 意見・評価	●花いっぱい運動事業は太田地域の独自の事業で、地域や学校、団体による花だんの整備や花づくり活動によって地域コミュニティの活動や世代間交流の促進を目的としており、地域枠予算を使って事業を実施していることから重要度が感じられます。事業内容も花いっぱいコンクールの実施や水仙ロードの延長など年間を通して活動されていることもあり、大変評価できる事業となっております。課題として、運動の中心的な活動をされている団体の高齢化をあげておりますが、新たなメンバーを確保できるようにご努力いただきたいと思います。 ◆これまでの継続した取り組みで太田地域の「花いっぱい運動」は、確実に地域に定着しているし、全県的にも「花のまちおおた」として注目されている事業になっていると思います。きっと、太田地域を通る他地域や県外からのドライバーたちの心も癒してくれていることでしょう。この運動では、小中学校の花壇経営とも連携されている上、地域の花壇管理に子どもたちが参加していることが素晴らしいと思います。太田花壇フェアの開催も地域の花壇づくりへの関心と意欲を高めるよい機会になっていると思います。

事務事業の点検・評価表

	番号	14	分野	生涯学習	担当課	総合図書館																															
事業名	子ども読書通帳事業																																				
事業の目的	子どもたちの読書活動推進の取り組みの一つとして、市内小・中学校、大曲支援学校小・中学部の児童生徒が、自分で読んだ本を「子ども読書通帳」記録することにより、児童生徒の読書に親しむ習慣づくりや、読書をする意欲を高めることを目的とする。																																				
事業の実施状況	事業費		169千円																																		
	子ども読書通帳事業は、「大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」に基づき、令和元年7月から、児童・生徒の読書に親しむ習慣づくりや読書意欲向上のため実施している。 読書通帳は、図書館や学校、自宅にある本など、自分で読んだ本50冊分を手書きで記録できる通帳で、表彰者には特典として、賞状やまるびちゃんが印刷された図書館利用カードを差し上げている。 毎月、市内8図書館に表彰者の学校名、学年、氏名等を掲示し読書活動の励みにしていただいている。◇対象者：市内小・中学校および大曲支援学校小学部・中学部の児童・生徒 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度別表彰者数 (単位:人)</th><th>50冊</th><th>100冊</th><th>200冊</th><th>300冊</th><th>400冊</th><th>500冊</th><th>1000冊</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3年度</td><td>238</td><td>179</td><td>100</td><td>52</td><td>26</td><td>20</td><td>5</td></tr> <tr> <td>R4年度</td><td>179</td><td>135</td><td>88</td><td>66</td><td>42</td><td>17</td><td>2</td></tr> <tr> <td>R5年度</td><td>153</td><td>128</td><td>83</td><td>49</td><td>16</td><td>39</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>						年度別表彰者数 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊	1000冊	R3年度	238	179	100	52	26	20	5	R4年度	179	135	88	66	42	17	2	R5年度	153	128	83	49	16	39
年度別表彰者数 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊	1000冊																														
R3年度	238	179	100	52	26	20	5																														
R4年度	179	135	88	66	42	17	2																														
R5年度	153	128	83	49	16	39	1																														
自己評価	☐ 順調に達成した ☐ おおむね達成した ☒ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった																																				
	読書通帳事業はスタートから5年が経過し、児童・生徒に広く浸透してきている。しかしながら、児童・生徒の減少もあり、最初の表彰対象となる「50冊賞」を達成する人数は減少傾向にある。 市立図書館ではこの事業に関連して、読む冊数にこだわらず、「本って楽しい!」、みんなはどんな本を推しているのかなど、本に親しんでもらうためのきっかけづくりとして、R4年度は自分の好きな本、誰かに読んでほしい本を文章やイラストなどで紹介する「わたしのおすすめ本」、R5年度は推し本をPOPで紹介する「わたしの推し本POPコンテスト」を子どもたちの夏休み期間に実施した。 子ども読書通帳事業を核として、各図書館で実施している読み聞かせや図書館見学など様々な機会を捉え、本に親しみ、楽しんでもらえるようなきっかけづくりを心がけた。																																				
課題等	学年が上がるにつれ、表彰者数は減少傾向にある。また、全国学力・学習状況調査の「読書を全くしない」割合は、残念ながら増加している(R5調査 小学校26.8%、中学校28.4%、H31調査 小学校12.8%、中学校17.8%)。読書に親しむ習慣づくりのためには、児童・生徒向けの「読書通帳事業」だけではなく、「ブックスタート」事業や子供向けの「読み聞かせ」、保育園等への絵本の団体貸し出し等、幼少期から本にふれあうことができる環境づくりや機会の提供にさらに努めていく必要がある。																																				

外部評価 有識者の 意見・評価	●子供たちの読書活動を推進するうえで効果が認められ、児童生徒に浸透していることも判る事業であると思います。本を読む楽しさを伝える「わたしの推し本POPコンテスト」なども本に親しむきっかけづくりになっていると思います。残念ながら、本をまったく読まない児童生徒も一定数いますので幅広い働きかけをしていただき、児童生徒の読書に親しむ活動を推進していただきたいと思います。 ◆子どもたちばかりではなく、大人を含めて紙媒体の読書離れは社会現象です。かつては、ほとんどの学校で朝読書に取り組んでいましたが、最近では、基礎学力の定着やICT対応などに使われるようになってきています。また、幼少期からゲームやタブレット、携帯端末でのユーチューブの視聴など、読書に親しむ環境はどんどん失われていつています。子ども向けの読み聞かせや保育園等への団体貸し出し等、幼少期から本にふれあうことができる環境づくりや機会の提供の充実に重点的に取り組んでいただきたいと思います。
-----------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

		番号	15	分野	芸術文化	担当課	総合市民会館
事業名		大仙市音楽祭２０２３					
事業の目的		「音楽のまち大仙」として、市民により身近なものとするため、「まちづくり」「ひとづくり」「きずなづくり」をコンセプトとした市民参加型音楽祭を開催して、音楽に触れ合うことのできる機会を提供する。					
事業の実施状況		事業費		3,392千円			
		開催日：令和５年１１月１１日(土)、１２日(日)、１２月８日（日） 会 場：大曲市民会館 大ホール、小ホール、大曲交流センター					
		令和５年度					
		NO	日付	会 場	公 演 名	入 場 者 数	
		1	11/11	中央公民館	企画公演 ソロフェスタ入賞者等	106	
		2	11/12	大曲市民会館	横濱音泉倶楽部 大人のコンサート	331	
		3	11/12	大曲市民会館	横濱音泉倶楽部 0歳からのコンサート	336	
		4	11/12	大曲市民会館 中央公民館 交流センター	横濱音泉倶楽部 楽器クリニック	105	
		5	12/8	大曲市民会館	大いなる秋田 大演奏会	751	
		合 計				1,629	
自己評価		☐ 順調に達成した ☒ おおむね達成した ☐ 達成したが課題があった ☐ 達成できなかった					
		昨年度に続き５回目の開催となった令和５年度は、「みんなでつくる・みんなで楽しむ・みんなの音楽祭」をテーマに、音楽を通して人があふれるまちづくりをめざすことを目標とした。 令和４年度に引き続き、ビッグバンド「横濱音泉倶楽部」を招き、『大人のジャズコンサート』や『0歳からのジャズコンサート』を開催し、幅広い年齢層に本格的なジャズコンサートをお届けするとともに、市内の中学・高校の吹奏楽部員を対象とした講習会『横濱音泉倶楽部クリニック』を開き、楽団員と交流しながら技術の向上を図る場を提供した。また、企画公演として公募及び大会の入賞者による音楽会を開催し、多くの市民が楽しめる音楽祭となった。また、12月には4年ぶりとなる「大いなる秋田 大演奏会」を開催し、多くの市民の参加をいただき、「大仙市音楽祭２０２３」のフィナーレを飾った。					
課題等		音楽祭実行委員会で企画内容を検討し、公演内容に応じて、実行委員及びボランティアスタッフと連携を図りながら運営する。今後も市民のニーズを取り入れながら、入場者数の増加を図っていく必要がある。					

外部評価 有識者の 意見・評価	●「音楽のまち大仙」として音楽祭を開催し、市民に音楽に触れる機会を提供することは意義のある事業であると思います。市民により身近な参加型の事業であることも評価できる内容となっています。今後も市民のニーズを取り入れながら魅力ある企画と一体となり、音楽祭がより盛大に開催されることを期待しております。 ◆「大いなる秋田 大演奏会」に751人の参加があったことに驚きました。市民の音楽に対する関心の高さを示しているものです。おそらく出演者と聴衆が一体となって「大いなる秋田」の大合唱が会場いっぱいに響きわたったことと思います。市民が参加できるような事業の企画に期待しています。現在も開催されているか把握していませんが、以前は「小中音楽祭」を開催していましたが、そのような企画とタイアップできれば、観客数は確実に増えると思いますし、事業目的の達成にもつながることと思います。
-----------------------------------	--

外部評価委員の総評

■ 中 村 隆 一 （学識経験者・元自治体職員 教育行政事務経験者）

今回評価の対象となった事業は、各地域の公民館で芸術文化祭を対象としたものが多くありました。各地域とも特色ある活動があり、参加人数も多いことから評価できる内容となっておりますが、課題として参加団体等の後継者不足をあげておりました。少子高齢化に伴って地域人口の減少や芸能発表する団体、ボランティアが減少し、このままだと近い将来に開催そのものが危ぶまれる状況になると思われます。市全体として開催方法を検討する時期がきているのではないのでしょうか。

また、去る7月1日の秋田さきがけ新聞の一面に、秋田県の小学校教員採用試験の志願倍率が過去最低の1.0倍となった記事が掲載され、長時間労働が原因で教員になろうとする人材が減少しているため、職場環境の改善に努め、魅力ある職場に変えていかなければならないという内容でした。評価対象事業の中には、教員の働き方改革に関連する事業もありましたので、どのように職場環境を改善していくのかなど、今後の国や県の動向を注視して事業に反映してもらいたいと思います。

■ 伊 藤 晃 （学識経験者・元中学校長）

この度、教育委員会の事務事業についての評価委員として各事業についての実施状況や自己評価、課題等について説明を聞く機会をいただき感謝しております。学校現場を離れると、教育委員会の取り組みに直接ふれる機会がなくなり、広報等からの情報程度になっています。実際に事業を担当している方々からのお話を伺って、各部署で、予算の制約を受けながらも、子どもたちや市民のために、知恵を絞り多大なる努力をされていることに心から敬意を表します。

各種報道によると、日本は人口減少社会となり、この流れはもはや止めようもないもののようです。とりわけ秋田県は、少子化と高齢化が深刻です。もはや、「化」がとれて少子高齢者社会になっています。若者の県外流出の増加も悩ましい問題となっています。今年の小学校教員採用試験の倍率が1.0倍というニュースには衝撃を受けました。一人一人が様々な可能性を求めて、活躍の場を県外に求めるのは、ある意味これまでの秋田県教育の成果ともいえると思います。自分の夢の実現のためにチャレンジする気持ちの強さと能力を育んできたのです。全国トップクラスの学力を維持し

ていることがその証です。一方で、その高い能力をふるさとのために生かしたいと思える子どもたちを育てることができていない（思いはあっても生かす場が見つからないのかもしれませんが）ということもいえるのではないかと、自分の教員生活を振り返りながら自問しているところです。

自分の生きざまを振り返ると、歳をとり経験を積むことによって、出来ることは増えていきましたが、新たな発想を生み出すことや、未知の世界へチャレンジする気持ちを失っていったように思います。そのことが、せっかくの子どもたちのアイデアや可能性の芽を摘んできたのではないかと反省しているところです。子どもたちの発想は、大人にとってはあまり価値あるものと思えなかったり、実現不可能に見えたりすることが多いのかもしれませんが。しかし、実際は、素晴らしいアイデアだったり、多くの知恵を集めれば実現できるものではなかったのか、その努力を怠っていたのではないかと思うのです。

出来得るものならば、教育委員会の各事業の企画、運営に子どもたちが参加する機会をつくっていただきたいと思います。「四ツ屋まつり」が子どもたちに楽しかった思い出をもたせたいという願いからスタートしたと伺いましたが、そのお祭りに自分たちのアイデアが生かされ、その運営に関わることができたら、その思い出の大きさはより一層大きなものになるに違いありません。そして、その体験が、ふるさととのつながりをより強く意識づけることにつながると思います。

もう一つ検討していただきことは、子どもたちに秋田県にいても自分の夢を実現させることができるということを実感させる場をつくっていただきたいことです。例えば、国際教養大の学生さんや卒業して秋田県内で活躍されている方々のお話を聞く機会の設定です。県内では国際教養大を卒業した県外出身の方々が活躍されています。その方たちが、なぜ秋田で新たな事業を起こそうと考えたのか、秋田にどんな可能性を見出したのか、ぜひ子どもたちに教えていただきたいと思います。県内各地の地域おこし協力隊の方々のお話もどうでしょうか。高校生にこそ、そのような場を提供できればと思うのですが、市の事業として行うとすれば対象は中学生となるかと思います。

大仙市がこれからも住みよいふるさとであり続けることを強く願っています。教育委員会の関係者の皆様には大変ご難儀をおかけいたしますが、どうかよろしくお願いいたします。